

市長さんが七夕会に参加



7月3日、篠田市長が来園されて、園児たちの七夕会に参加してくださいました。願いを記した短冊「みんな えがおで げんきいっぱい😊 美濃市長 篠田啓介」(上の写真)も用意していただき、短冊を手にねがいを話す市長さんのことを園児たちは目もパッチリで聞いていました。「おはようございます。」「よろしく願いします。」等の声は「えがおで げんきいっぱい」があふれんばかりでした。

「みなさんにお願いがあります。私と友達になってください。」と言われた時は、子どもながらに半信半疑でまばらな「ハイ」だったところが面白かったです。その後も園内を見学した際には「わたしのこと覚えてる？」と繰り返し子どもたちに声をかけてみえました。「市長さん!!」と元気いっばいに声が返ってくると、篠田市長もニコニコ顔。お互いに元気エネルギーを贈り合うすてきな時間になりました。公私ともにご多用の中の来園に職員・園児みんなで感謝です。

更生保護女性会の読み聞かせ（7月10日）

今回は年長さんの番でした。一人お休みだったので4人でした。おばちゃんたちも最初は「なんかさびしくなったね。」と言ってみえましたが、4人の熱心に聞く様子や、反応の素直さにふれて、おばちゃんたちも楽しそうに明るい声で読み進めてくださいました。4人だからこそその光景も生ま



れました。4人全員で事務室にお迎え行っておばちゃんたちと手をつないでお部屋まで案内できたこと。そして、最後は4人が並んで手を振って、ハイタッチまでしてお別れできたことです。少ない人数だからこそできる濃いふれあいもいいものですね。



短冊に願い 七夕飾り届ける

美濃 ふれあいセンターに園児ら



美濃市長瀬の下牧（こども園の年長園児5人が6月30日、七夕の短冊飾りを同市片知の下牧地域ふれあいセンターに届けた。七夕を前にした恒例行事。

高さ3・5メートルのササに「消防士になれますように」「元氣いっぱい過ごせますように」など書いた短冊が並び、折り紙で作った飾りが彩りを添えた。5人は1列に並び、ふれあいセンターの沢村浩所長にササを手渡し「お願いします」と元氣よくあいさつ。沢村所長は「夢がかなうといいね」と笑顔で答えた。

短冊飾りを沢村所長（手前）に手渡す園児たち。美濃市片知の下牧地域ふれあいセンターで

6月30日（火）中日新聞に掲載

鮎と遊びつくす子どもたち

～7/12 鮎のつかみ取り（公民館事業）～

た。
沢村所長は「センターに来る人たちが毎年楽しみにしている。この地区は子どもが少ないので、今年も持ってきてくれてうれしい」と話した。（柳田瑞季）

今年もこども園のプールを使って、「鮎のつかみ取り」が開催されました。「鮎も必死に逃げます。皆さんも必死にがんばってつかんでください。」という宮西公民館長さんの言葉で始まりました。なるほど！鮎たちもすごい勢いで泳ぎ飛び跳ねます。そのスピードに負けまいと暴れ馬のごとく追い回す子もいれば、プール隅に追い込んで次々つかんで見せる子もいれば、鮎の賢さとスピードに遊ばれることを楽しんでいるような子もいて、その一挙手一投足を見守るご家族の皆様も大いに盛り上がりました。園児の親御さんが「去年とは別人のように鮎をつかんでいました。」と、1年の子どもの成長に感心してみえましたが、多くの親御さんが同じ気持ちで子どもの成長を実感されたことでしょう。

今年はずかんだ鮎（子ども一人5匹）を持ち帰りました。昨年までは、漁業組合の皆様がその場で焼いて下さり、無料でご相伴にあずかっていましたが、熱中症（健康）への配慮からそれとはなくなりました。私も、孫が取った鮎を持ち帰って、串で刺して塩焼きにしましたが、炭火からの熱風に体の体温がどんどん上昇し、その場に居続けられないことを実感しました。改めて、昨年度まで400匹近いアユを卓越した技で香ばしく焼いていただいた漁業組合の皆様への感謝の念がわいてきました。私の焼いた焦げた鮎たちは、「もっと鮎はじっくり時間をかけて焼かないと。」と妻からの小言をもらいながらも、孫とその親で全部平らげてくれました。

